



春日小だより

令和 7 年 9 月 1 日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信 9 月号

地球温暖化の後にくるものは

校長 後藤 京子

昨年の夏は猛暑日（最高気温が 35℃以上）の日数が過去最多となり今年はまた記録を更新してしまうのだろうかという不安から始まった夏休み。想像以上の暑さと大雨による被害が日本全国に広がりました。幸いにも、本校の子どもたちには大きな事故や病気の報告はなく、元気に学校に戻ってきました。今年度は、7月に水泳を終了しました。この夏休み、子どもたちは自分の自由な時間が確保され、また、厳しい暑さの中の登校をなくすことで、安心して制約のない 42 日間を過ごせたのではないのでしょうか。

全国的に「記録的」「命の危険に関わる」といった言葉が毎日のようにニュースで流れる厳しい暑さでした。

春日小では、この 6 月、環境月間に合わせ、子ども省エネアクションを実施しました。休み時間の教室の電気を消すこと、授業中には廊下の電気を消すこと、5～6 年生は給食中にストローを使わずに牛乳を飲むこと、そして、残食を減らすことなどを行ってきました。8 月の上旬に本校の電気使用量が発表され、効果がどれくらいあるかと期待を込めて確かめたところ、令和 6 年度の 6 月は 17433kWh、令和 7 年度 6 月は、21647kWh、なんということでしょう・・・。4214kWh も増えてしまっていました。それもそのはず、練馬区の平均気温が令和 6 年度と 7 年度を比べると、1.9℃も上がっていたのです。全国でも 6 月の平均気温は、統計開始以来最高のプラス 2.34℃を記録し、東京都では猛暑日が 25 日間ありました。7 月 30 日に兵庫県の丹波市で 41.2℃を観測、8 月 5 日には群馬県の伊勢崎市で、41.8℃に達し、わずか 1 週間で記録を塗り替えたことは皆さんも記憶に新しいことと思います。昔は、宿題を涼しいうちに片付けて、遊びに行くことが子どもたちの夏休みの生活になっていましたが、今は、昼間公園等で遊んでいる姿は減り、夕方、保護者の方と遊びに来る子どもたちの様子が先日のニュースでも話題になっていました。ここ数年で大人たちはもちろん、子どもたちの生活様式がすっかり変わってしまいました。令和 5 年 7 月の、国連の事務総長が国連本部の会見で「地球温暖化は終わり、地球沸騰の時代が来た」との言葉から 2 年がたちました。ますます沸騰化しているこの地球を、私たち大人でなく子どもたちがこの先どうしていくのか、自分事として捉えた行動が求められています。

2 学期、5 年生の移動教室を始め、1.2 年生、3.4 年生の遠足、そして音楽会などの行事が予定されています。各行事を通して、子どもたちがより成長していく機会がたくさんあります。実社会の課題から問題意識をもち、主体的に学習に取り組み、自分を大切にしてみわりの人すべての人と環境にやさしく接し、地域の人とすすんで関わり、それらを通して粘り強く問題解決を図る子どもたちを育ててまいります。